第59回人間科学セミナー

@北館2階ラーニングコモンズ

＊参加自由(申込不要)

7/27(木)
13:00~

13:00～13:40
公教育の危機としての教員多忙化問題
―教師はなぜ「しんどい仕事」になったのか？―
教育学系　髙橋哲准教授

13:45～14:25
フランス・エピステモロジーから人類史の哲学へ
共生学系　近藤和敬准教授

14:30～15:10
教師の指導観が授業づくりに与える影響
―教師が授業で子どもに問うことの再評価―
教育学系　玉城明子准教授

15:15～15:55
シナリオ地震による日本の災害対策の問題と
コミュニティ防災
未来共創センター　杉本めぐみ准教授

大阪大学大学院人間科学研究科
附属 未来共創センター
mirai-kyoso@hus.osaka-u.ac.jp

髙橋　哲

公教育の危機としての教員多忙化問題
―教師はなぜ「しんどい仕事」になったのか？―

教師の多忙化が、教師の労働問題、教育問題にとどまらず、社会問題となっている。学校の「ブラック化」は、若者の教員離れを引き起こし、教師のなり手不足、教員採用倍率の低下を生み出し、「公教育の危機」ともいえる状況を生み出している。その要因として、「給特法」という法律の存在がクローズアップされてきた。給特法は、給料月額4％の教職調整額という独自手当を支給する代わりに、労働基準法が定める超勤手当を支払わない、という特殊な仕組みを教員に適用している。それゆえ、この法律は「定額働かせ放題法」とも揶揄され、批判の対象とされてきた。学校の先生たちの仕事は、なぜこれほどまでに「しんどい仕事」となってしまったのか？この講演では、その歴史的、法的背景を明らかにするとともに、多くの問題が指摘される「給特法」を徹底的に解剖する。教師が子どもの成長と向き合う仕事であり続けるために、あるべき「出口」を参加者とともに考えたい。

近藤　和敬

フランス・エピステモロジーから人類史の哲学へ

発表者のこれまでの研究概要を、フランス・エピステモロジーから人類史の哲学へと展開していく過程として紹介する。そのことを通して、最近のエピステモロジー研究の動向と、社会哲学としての側面への注目といったトピックをあわせて紹介してく。

フランス・エピステモロジーとは、現代フランス哲学の一潮流であると同時に、19世紀フランスのオーギュスト・コントに始まる実証主義哲学の系譜でもある。発表者の研究は、この系譜の二〇世紀的展開である「概念の哲学」（カヴァイエス）を中心として、戦後フランスの現代哲学におけるその影響関係（たとえば、カンギレム、アルチュセール、シモンドン、ドゥルーズ、フーコーなど）を明らかにする一方で、その背景的文脈にある実証主義とスピノザ解釈の歴史的影響関係を解明するものでもある。最終的にこのような研究が、人類史の哲学というかたちでより広い現代的関心とどのように結びつけられることになるのかということを簡単に紹介することにしたい。

玉城　明子

教師の指導観が授業づくりに与える影響
―教師が授業で子どもに問うことの再評価―

授業における教師の問いかけはどのように追究されてきたのか、一問一答形式や唯一の正答を求めるような問いではなく、教師の問いは子どもへの応答として構想され、その教師の問いが子どもの問いを生み出し、さらに新たな問いが教師や他の子どもたちの応答を生み出していく。教師が問うことは、子どもに、または子ども同士にどのような影響を及ぼすのか、教師と子ども、子ども同士を相互主体のかかわりへと発展するための問いを整理した上で、こうした生成的な空間として展開する授業を支える指導観について着目する。

授業において教師の問いかけはなぜ必要かについて、学力保障の観点から、とりわけ授業づくりにおける教材研究と発問づくりの意味や働き、相互の関係を踏まえつつ、どのような教材－発問づくりを進めていくのか事例を含めて検討したい。

杉本　めぐみ

シナリオ地震による日本の災害対策の問題とコミュニティ防災

南海トラフ巨大地震の防災対策を最重点に置く災害対策は、毎年起きている豪雨で激甚災害指定を受けている日本の状況に対し、しっくりこないと感じておられる方もおられるのではないでしょうか。

マグニチュード9.2の2004年スマトラ沖地震津波で壊滅状態だったインドネシア・アチェで取り組んで来たコミュニティ防災（Community Based Disaster Management）から見える日本の防災対策の問題、東大地震研究所在職時に起きた東日本大震災と南海トラフのシナリオ地震の防災対策問題、ユネスコで取り組んだ温暖化と水災害リスクマネジメント、日本で一番原発に近い国立大学で学際研究と防災教育に全学の災害研究者で取り組んで来たこと等。研究者としてだけでなく防災教育の実践家としての取り組みについても報告します。

阪大に着任してから学内の研究チームに入って現在取り組んでいる大阪府の津波防災調査についても紹介し、課題も提起します。